

高齢出産とともに増える 先天異常のリスク

35歳以上のいわゆる高齢出産になると、赤ちゃんの先天異常のリスクが増加します。中でも加齢が影響しやすいものとして染色体の数の異常があることが知られています。

出生前検査では、生まれる前に赤ちゃんの病気や先天異常の有無を推測し診断します。そうすることで生まれてくる赤ちゃんのための準備を整えることもできます。しかし命の選別にもなりかねないため、安易に検査を受けることで不安になる場合もあります。本当に検査を受ける必要があるかどうか、よく考えて決めなければなりません。

着床前スクリーニング について

妊娠中に胎児のことを調べるのではなく、体外受精を行い、受精卵の染色体を検査（着床前検査）し、正常の染色体である受精卵のみを子宮にもどす着床前スクリーニングの研究が日本で始まりました。しかし、この方法も生命の選別につながる可能性があります。また、生命には関わらない病気や個性といってもよい違いに関する遺伝子を見つけて排除するようになっては、みんなが生きにくい社会になるかもしれません。

みんなが助け合うことができる 社会に

たとえば、ダウン症の子どもは、身体の発達も、知的な発達もゆっくりです。でも、明るくてやさしい性格であり、周りの人たちはすぐに友だちになります。多くの人々がみんなと一緒に学校生活や社会生活を送っています。パン屋などのお店や工場で働く人、なかにはダンサーとして活躍している人もいます。

みんなが助け合うことができる社会を目指すことで、ダウン症の人々のみならず、誰もが活躍できる場が増えていきます。



「子どもがほしい」 という場合は…

岡山県不妊専門相談センター 「不妊・不育とこころの相談室」

〒700-8558
岡山市北区鹿田町2-5-1 岡山大学病院内
☒ funin@cc.okayama-u.ac.jp
TEL・FAX 086-235-6542
<http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~funin/>

「妊娠?どうしよう」 という場合は…

おかやま妊娠・出産サポートセンター 「妊娠・安心相談室」

〒700-8558
岡山市北区鹿田町2-5-1 岡山大学病院内
☒ ninshin@okayama-u.ac.jp
☒ anshin@okayama-u.ac.jp
TEL・FAX 086-235-7899
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/ninshin/>

妊娠・子育て・不妊症・性・ジェンダーに 関する「本を読みたい」「情報を得たい」 という場合は…

岡山大学医学部保健学科 リプロカフェ 保健学科棟2階 (お越しになる場合は予めご連絡ください)

〒700-8558
岡山市北区鹿田町2-5-1
☒ josan@cc.okayama-u.ac.jp
TEL・FAX 086-235-6538
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/josan/>

岡山県不妊専門相談センター
「不妊・不育とこころの相談室」
岡山大学大学院保健学研究科

— 監修 —

岡山大学大学院保健学研究科
岡山大学生殖医療技術 (ART) 教育研究センター
中塚幹也

知っておきたいシリーズ 4

今のうちに知っておこう! 出生前検査



岡山県不妊専門相談センター
「不妊・不育とこころの相談室」
岡山大学大学院保健学研究科

お腹の中の赤ちゃんの病気などを調べる検査

出生前検査・診断

出生前検査には、お腹の赤ちゃんにリスクの少ないスクリーニング検査（簡易検査）と流産などのリスクを伴う確定診断があります。スクリーニング検査を行い、異常の可能性が高かった場合は確定診断を行います。いずれの検査も受けるかどうかは自由意思であり、強制されることはありません。



【提供卵子で高齢出産、妊婦の8割が合併症】

海外で若い女性の卵子の提供を受けて妊娠する女性は増えており、その平均年齢は約45歳とされます。国内で出産した50歳前後の妊婦の調査では約8割が、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、切迫早産などの合併症を起こしていたことが報告されています。その割合は、妊娠高血圧が9人（33.3%）と最も多く、通常出産よりも約6倍も高い確率でした。妊娠糖尿病も8人（29.6%）で約2.5倍、切迫早産も12人（44.4%）で約3倍でした。これらの合併症の治療のため、27人のうち22人が入院、また双子を妊娠した4人は全員、切迫早産のためにやはり入院しています。（合阪幸三：第43回日本周産期・新生児学会、2007年）

海外の報告でも、卵子提供による妊娠は高齢の場合が多く、2,308例のうち22.6%が高血圧となったともされます。

閉経後の女性が妊娠する超高齢出産の場合は、スタッフがそろった周産期医療センターなどでの十分なケアが必要だということがわかります。

【「従来の生殖年齢」を超えた女性の妊娠・出産・子育て】

インド人女性が若い女性の卵子をもらって体外受精で女兒を出産しました。出産した女性はなんと70歳！一般に高齢女性の妊娠・出産は、内科的疾患や妊娠高血圧症候群などの合併率が高いことが知られています。それだけではなく、高齢の女性が子育てをする場合、子育てができなくなったり、いずれは子どもが学業やキャリアを犠牲にして親の介護に回らなければならないなどの心配も出てきます。

このインド人の女性の場合は一族みんなで子育てをする環境だったことが、高齢出産をし、家族が幸せに過ごせた理由だと考えられています。

検査	期間（妊娠週数）	方法	説明	診断	
無侵襲的出生前遺伝学的検査 (NIPT)	10~22週	採血	妊婦さんから採取した血液で赤ちゃんの染色体異常を調べる検査です。現在の日本では13、18、21番目（ダウン症候群）の染色体数の異常を調べるのが認められています。	スクリーニング検査（簡易検査）	
		超音波	Nuchal Translucency (NT:胎児頸部浮腫)と呼ばれる赤ちゃんの首の後ろの浮腫（むくみ）を超音波で確認します。浮腫が強くなると染色体の異常や心臓などの異常を持っている率が高くなります。		
母体血清マーカー検査	15~20週	採血	妊婦さんの血液の4種類のタンパク質濃度を測定する検査が代表的です。赤ちゃんが染色体や脊椎の異常を持っている場合と正常の場合との濃度を比較して、先天性の異常の確率を推測します。		確定診断
		絨毛検査	超音波検査によって胎盤の位置を確認しながら、針を妊婦さんの腹壁から子宮内に挿入したり、カテーテルを子宮頸部から挿入したりなどして、絨毛（胎盤を形成する組織の一つ）を採取します。採取した赤ちゃんの細胞に含まれる染色体を調べます。		
羊水検査	15週以降	羊水穿刺	お腹の中の赤ちゃんは羊水の中で大きくなります。その過程で細胞が剥がれ落ち、羊水中に浮遊します。針を妊婦さんの腹壁から子宮内の羊水腔まで挿入して羊水を取り、その中の細胞に含まれる染色体を調べます。		